

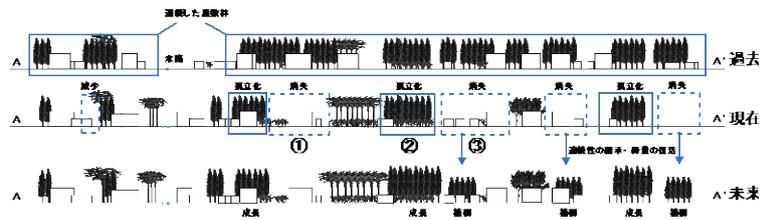
令和4年度の研究(または活動)内容

2022年度は、主に3つの調査・研究活動を行なった。

(1) 農村景観の調査

① 世界農業遺産「大崎耕土」の屋敷林に関する調査

世界農業遺産「大崎耕土」における屋敷林の構成要素の抽出を行い、その変容過程の考察を行った。なお、これらの成果は「大崎耕土「居久根」保全マニュアル」へ援用され地域への公開還元も進んでいる。



(屋敷林調査の例:「大崎耕土「居久根」保全マニュアル」へ掲載)

② 農村部における民家の特性とその変容過程に関する研究

街道に面するトタン葺民家の構成とその変容過程に関する研究、大崎耕土における連棟型民家の構成に関する研究など。なお、前者は日本建築学会優秀卒論賞を受賞(2022年)。

(2) 都市景観の調査

① 仙台藩城下における災害とその町への影響に関する調査

白石市の歴史的市街地を対象として、災害による町並み景観の影響に関する調査を行った。

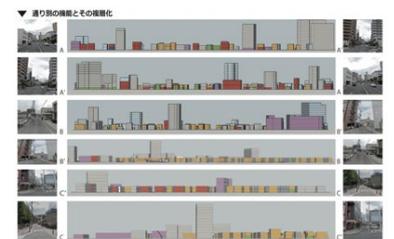
(町並み調査の例:建築学会大会原稿に掲載)



② 旧街道沿いの町並みの構成要素とその変容に関する調査

仙台市長町にて都市景観の調査活動を行った。これらの成果は、太白区との共同講座及びその成果報告の場で情報公開共有を行い、地域への公開還元活動も進んでいる。

(町並み調査の例:「太白区共同講座報告冊子」へ掲載)



③ 八木山地区における町並み景観構成要素の抽出とそのマップ制作

仙台市八木山地区にて都市景観の調査活動を行い、その成果を地図としてまとめ、地域への情報公開活動を行なった。

(Map制作の例:「YAGIYA Map」として都市内に掲出)



(3) 農村景観の保全 WS

① 農村部に現存する民家の保全活動・その1

南三陸に現存する民家の再生活用を提案。その上で、学生らの学びの場として建物の改修作業をセルフビルド形式にて実施(地元大工の管理下にて)。これらの活用は、地域の皆さんに当該地域における景観要素としての魅力を発信する機会になると考えている。



(南三陸町の民家再生 WS の様子)

② 農村部に現存する民家の保全活動・その2

仙台市太白区に現存する仙台最古の民家を地域の交流拠点とすべく、再生活用を提案。その上で、学生らの学びの場として建物の改修作業をセルフビルド形式にて実施(地元大工の管理下にて)。この活動がきっかけとなり、民家へ新たな投資が行われ、本格的な再生に繋がった。



③ 農村部に現存する小屋の保全活動

仙台市太白区に現存する農家の小屋を地域の交流拠点とすべく、公衆的トイレを設計し、その施工をセルフビルド形式にて実施(地元大工の管理下にて)。そして、公衆的トイレ完成に合わせて小屋の公開イベントとしてカフェ企画を実施。約150人の地域の方々に仙台市太白区の村の存在とその景観的価値を共有することができた。



(生田地区の民家再生 WS の様子)